

5～11歳用新型コロナワクチンの募集要項 (2023.3.20版)

まず、2023年3月9日に国から新型コロナワクチンの特例臨時接種を2024年3月31日まで延長する方針が示されました。2023年2月28日にオミクロン株(BA.4-5)に対応した5～11歳用の新型コロナウイルス2価ワクチン(以下、小児用2価ワクチン)が薬事承認され、2023年3月8日以降、初回接種(小児用コロナワクチンなら少なくとも1・2回目、6か月から4歳用の乳幼児用コロナワクチンなら1・2・3回目)を終了し、最終接種から3か月以上空けば、5～11歳を対象とした、オミクロン株対応2価ワクチンでの追加接種に使用できることになりました。小児用2価ワクチンは1・2回目に使用することはできません。小児用従来型ワクチンでの3回目の接種は原則2023年3月31日までで終了します。5～11歳で1・2回目の方は従来型コロナワクチンを使用します。

小児用コロナワクチンは5歳の誕生日の1日前から対象になります。12歳の誕生日の1日前からは12歳以上のコロナワクチンの対象になります。小児用コロナワクチンを1回接種後、2回目の接種前に12歳の誕生日を迎えた場合は、2回目は小児用コロナワクチンを接種します。小児用コロナワクチン1・2回目を終了している方が3回目の前に12歳の誕生日の1日前を迎えた場合は、12歳以上のコロナワクチンを接種します。

6か月から4歳用の乳幼児用コロナワクチンを開始している方は、3回目終了までが1セットです(これで初回接種終了)。途中で5歳を超えても乳幼児用コロナワクチンを3回完了させてください。乳幼児用コロナワクチンを完了していて、最後の接種から3か月以上空いたら、5歳の誕生日の1日前から小児用コロナワクチンを受けられます。

2023年3月8日以降に小児用2価コロナワクチンを受けた方で、基礎疾患等があり、2023年5月8日から8月31日の間に小児用2価コロナワクチンの接種から3か月以上空いて、年齢対象なら、さらにもう一回小児用2価コロナワクチンの追加接種が可能です(5回目接種の人が出てきます)。

12歳以上(厳密には12歳の前日から)の方で、「65歳以上の高齢者」・「基礎疾患を有する方」・「医療従事者等」に当てはまらない方は、2023年5月8日から8月31日は接種対象ではありません。

	対象者		時期		
			令和4年度	令和5年度	
			令和4年秋開始接種 【R4.9.20～R5.5.7】	令和5年春開始接種 【R5.5.8～8.31予定】	令和5年秋開始接種 【R5.9.1～12.31予定】
追加接種	12歳以上	65歳以上	○ (12歳以上用2価)	○ (12歳以上用2価)	○ (使用するワクチンは 検討中)
		基礎疾患あり			
		医療従事者等			
		上記以外の方 (健常な65歳未満)			
追加接種	5～11歳	基礎疾患あり	追加接種 【～R5.3.31】 (従来型)	【R5.3.8～ R5.8.31】 (小児用2価) 令和4年秋開始接種を延長して実施	○ (小児用2価) 3か月以上でもう1回可
		上記以外 (健常な小児)			
初回接種	12歳以上		接種対象(12歳以上用、従来型、1・2回目、当科で不可)		
	5～11歳		接種対象(小児用、従来型、1・2回目、当科で可)		
	6か月～4歳		接種対象(乳幼児用、従来型、1・2・3回目、当科で可)		

今から小児用コロナワクチン1・2回目の方 小児用初回接種の募集要項

堺市在住の5歳の誕生日の1日前から12歳の誕生日の2日前までにスタートすることができます。小児用コロナワクチンを1回接種後、2回目の接種前に12歳の誕生日を迎えた場合は、2回目は小児用コロナワクチンを接種します。小児用コロナワクチン1・2回目を終了している方が3回目の前に12歳の誕生日の1日前を迎えた場合は、12歳以上のコロナワクチンを接種します。

従来型コロナワクチンを使用します。小児用2価ワクチンは使用できません。

乳幼児用(6か月～4歳)接種用の接種券は、使用していなければ、5歳になる1日前から小児(5～11歳)用ワクチン接種用の接種券として使用することができます。

2022年8月10日に日本小児科学会は5～17歳のすべての小児に新型コロナワクチンを推奨すると発表しました。

<予約方法> 当科診療日の時間内に電話(072-297-7771)か窓口で受付します。

<接種日> 特定木曜の17:00からを想定します。

<使用ワクチンと量> 小児用従来株(1価)ファイザーワクチンを1・2回目とも0.20mL使用します(有効成分としては、12歳以上のワクチンの1/3量になります)。

<接種当日に必要なもの>

- ①接種券付き予診票
- ②予防接種済証
- ③可能な限り、母子手帳
- ④本人確認書類(健康保険証や子ども医療証、マイナンバーカードなど)
- ⑤お薬手帳(現在お薬をもらっている方のみ)

注意点 (1) 新型コロナワクチン前後2週間はワクチン接種ができません(インフルエンザワクチンを除く)。

(2) 接種当日は肩を出しやすい服装を選んでください。

(3) 副反応が出ないか、接種後15分以上(場合により30分以上)、当科で滞在いただきます。

<効果について> 日本小児科学会紹介の海外論文によると、流行株がオミクロン株に変わってからの小児用コロナワクチンの2回接種後の感染予防効果は31%、発症予防効果は51%、入院予防効果は68%でした。ただ、接種後の時間経過とともに減衰することが確認されています。

<副反応について>

従来型ワクチンでの
1・2回目の副反応

	5-6歳		7-8歳		9-11歳	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
発熱	3.8%	8.6%	2.1%	6.0%	2.1%	5.7%
疲労感	28.5%	35.9%	31.5%	37.4%	37.6%	42.5%
頭痛	14.4%	19.5%	20.9%	26.0%	27.5%	33.7%
筋肉痛	4.3%	8.4%	10.1%	9.3%	10.9%	14.8%
関節痛	2.7%	2.4%	3.0%	3.3%	3.8%	7.8%
嘔吐	3.0%	2.7%	2.8%	1.9%	1.4%	1.4%
下痢	6.0%	4.3%	4.8%	5.1%	6.5%	5.8%

※米国では、12～17歳男子に比べ、5～11歳男子の方が、心筋炎が報告される割合が低いとされています。

初回接種を終了している方 小児用2価ワクチンの募集要項

堺市在住の5歳の誕生日の1日前から12歳の誕生日の2日前までの方で、かつ、初回接種(小児用コロナワクチンなら少なくとも1・2回目、6か月から4歳用の乳幼児用コロナワクチンなら1・2・3回目)を終了し、最終接種から3か月以上空いた方が対象です。

小児用2価コロナワクチンを使用します(法律的には2023年3月31日までは従来型ワクチンで追加接種することができますが、2023年4月1日以降は使用できなくなります)。

乳幼児用(6か月～4歳)接種用の接種券は、使用していなければ、5歳になる1日前から小児(5～11歳)用ワクチン接種用の接種券として使用することができます。

2023年3月8日以降に小児用2価コロナワクチンを受けた方で、基礎疾患等があり、2023年5月8日から8月31日の間に小児用2価コロナワクチンの接種から3か月以上空いて、対象年齢なら、さらにもう一回小児用2価コロナワクチンの追加接種が可能です(5回目接種の人が出てきます)。

<予約方法> 当科診療日の時間内に電話(072-297-7771)か窓口で受付します。

<接種日> 2023年3月17日以降、準備の整った施設から開始されます。

当科では3月25日(土)以降の特定土曜の9:00～9:45を想定します。

<使用ワクチンと量> 小児用2価ファイザーワクチンを0.20mLです(有効成分としては、12歳以上のワクチンの1/3量になります)。

<接種当日に必要なもの>

- ①接種券付き予診票
- ②予防接種済証
- ③可能な限り、母子手帳
- ④本人確認書類(健康保険証や子ども医療証、マイナンバーカードなど)
- ⑤お薬手帳(現在お薬をもらっている方のみ)

注意点 (1) 新型コロナワクチン前後2週間はワクチン接種ができません(インフルエンザワクチンを除く)。

(2) 接種当日は肩を出しやすい服装を選んでください。

(3) 副反応が出ないか、接種後15分以上(場合により30分以上)、当科で滞在いただきます。

<効果について> 現段階では、『これまでの(12歳以上での2価ワクチンでの)臨床試験成績やこれまでの知見等を踏まえると、5～11歳の小児に対しても有効性は期待でき、安全性プロファイルは親ワクチンと概ね同様と考えられたことから、5～11歳の小児に対して2価ワクチンを使用可能な状況とすることは臨床的意義があると判断する』に留まっています。

<副反応について>

従来型で3回目
接種後の副反応

(厚生労働省の『新型コロナワクチン接種(3回目)のお知らせ』より)

報告割合	接種後の症状(発現率)
50%以上	疼痛(73.9%)
10～50%	疲労(45.6%)、頭痛(34.0%)、筋肉痛(18.3%)、発赤(15.6%)、腫脹(16.4%)、悪寒(10.5%)
1～10%	発熱(6.7%)、関節痛(6.7%)、下痢(4.9%)、嘔吐(2.4%)

従来型で3回接種後に5～11歳用2価ワクチンを接種した113例の副反応

(独立行政法人医薬品医療機器総合機構の『特例承認に係る報告書』より)

報告割合	接種後の症状(発現率)
50%以上	疼痛(64.0%)
10～50%	疲労(40.5%)、頭痛(25.2%)、筋肉痛(13.5%)
1～10%	悪寒(9.0%)、関節痛(9.0%)、発赤(7.2%)、発熱(4.5%)、腫脹(4.5%)、嘔吐(3.6%)、下痢(3.6%)

重症化が懸念される小児の基礎疾患一覧（日本小児科学会より）

①慢性呼吸器疾患	慢性呼吸器疾患(気管支喘息を除く) 気管支喘息(コントロール不良の難治性喘息)
②慢性心疾患	先天性心疾患 ・症状がある、または治療ないし運動制限を受けている ・不整脈、肺高血圧がある、または治療ないし運動制限を受けている ・半年以内に心臓手術を予定している、または過去3か月以内に心臓手術を受けた ・複雑型先天性心疾患(心内修復術前)ないしフォンタン手術後 ・染色体異常、先天異常症候群、全身合併症がある 後天性心疾患、心筋疾患、不整脈、肺高血圧、冠動脈疾患 ・有症状、または治療中 ・心臓・肺移植を予定している、または移植後 ・ステロイド薬や免疫抑制剤の使用など免疫低下がある
③慢性腎疾患	慢性腎疾患、末期腎不全 ・血液透析、腹膜透析を受けている 腎移植 ・免疫抑制療法を受けている
④神経疾患・神経筋疾患	脳性麻痺 難治性てんかん・神経疾患 染色体異常症 重症心身障害児・者 神経発達症 ・マスクの着用が困難である場合
⑤血液疾患	急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、ランゲルハンス細胞性組織球症、血球貪食症候群、慢性骨髄性白血病、再生不良性貧血、先天性好中球減少症などの骨髄形成不全 造血幹細胞移植後半年以降 原発性免疫不全 溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病(免疫抑制療法を受けている)
⑥糖尿病・代謝性疾患	アミノ酸・尿素サイクル異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症、糖質代謝異常症、ライソゾーム病、ミトコンドリア異常症
⑦悪性腫瘍	小児固形腫瘍
⑧関節リウマチ・膠原病	リウマチ性疾患、自己免疫疾患、自己炎症性疾患、血管炎症候群
⑨内分泌疾患	副腎機能不全、下垂体機能低下など 甲状腺機能亢進症
⑩消化器疾患・肝疾患等	炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病など) 胆道閉鎖症(葛西術後) 肝移植、小腸移植後 自己免疫性肝炎、原発性硬化性胆管炎 肝硬変、肝不全 短腸症
⑪先天性免疫不全症候群、HIV感染症、その他の疾患や治療に伴う免疫抑制状態	
⑫その他の小児領域の疾患等	高度肥満 早産児 医療的ケア児 施設入所や長期入院の児 摂食障害(体重減少が著しい場合(極端にやせが進行した場合))
⑬海外での長期滞在を予定する者	

不要になりましたら、必ずキャンセルください。



(医) 医真会 あかざわ小児科
TEL 072-297-7771